

小堀 喬久 さん (30歳)

(営農類型：ベビーリーフ)
(平地)

新規就農までの経緯・背景

実家は農家だったが、自分の力で農業経営を行いたいと考え、独立就農することを決意した。農地・施設をリースすることができた鉾田市で就農し、経営品目は、機械や施設の利用率が高く周年で栽培できる「ベビーリーフ」を選定した（平成25年経営開始）。

経営発展のポイント

- ・経営初期は夏場の高温で収穫量が落ち込んだが、遮光ネットの展張や適切な灌水管理等を心がけ、年間最大8回転できる周年栽培となった3年目から農業経営が安定した。
- ・青年等就農資金を活用して、パイプハウスを新設して規模拡大を進め、就農5年目に目標の農業所得を達成した。
- ・県が開催する「いばらき農業アカデミー法人化促進講座」に参加し、農業法人設立に必要な税務、労務管理等の基礎知識を習得した。
- ・就農6年目には、認定農業者に認定された。

農業次世代人材投資資金、無利子融資の活用例

農業次世代人材投資資金は経営が安定するまでの生活費として活用。無利子融資（青年等就農資金）は、パイプハウスの規模拡大に活用。



今後の取組

2年後には、500万円以上の所得目標を立て、農業法人を設立予定。

ベビーリーフに加えて、新規品目としてコマツナ等の葉物類を導入し、経営発展させたい。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

- ベビーリーフ 30a
(ハウス12棟)
- ・平成25年に経営開始
 - ・全量JA出荷により、農業所得は約100万円
 - ・農業次世代人材投資資金により生計が安定



3～5年目

- ベビーリーフ 95a
(ハウス31棟)
- ・青年等就農資金を活用しハウスを規模拡大
 - ・臨時雇用1名を確保
 - ・農業所得は約200万円



現在（6年目）

- ベビーリーフ 95a
(ハウス31棟)
- ・販路を新たに開拓し、契約出荷も開始
 - ・販売金額1.5千万円、農業所得250万円超



今後の目標（7～8年目）

- ベビーリーフ 95a
コマツナ 20a
(ハウス40棟)
- ・常時雇用者を確保し、新規品目を導入
 - ・農業法人設立を予定
 - ・農業所得の目標は500万円

たかはし ゆきひろ
高橋 幸大 さん (42歳)

(営農類型：果樹)
(中山間)

新規就農までの経緯・背景

工業系の大学を卒業し、建設業に就職したものの、祖父が栽培していたブドウへのあこがれがあったことから、会社を退職して、県立農業大学校で2年間技術を習得し、更に、自宅近くのブドウ園で2年間研修。その後、研修先近くで、栽培をやめるブドウ園が見つかり、日立市で独立し平成23年に就農。

農業次世代人材投資資金 の活用例

病害軽減のため、雨よけ設備の整備が急務であった中、農業次世代人材投資資金は非常に役立った。



経営発展のポイント

- 栽培を引き継いだブドウ園は、露地栽培だったため、病害（晚腐病）の発生に悩まされたが、県の普及員や近隣の先輩農業者からの助言により、雨よけ設備を補助事業等を活用して徐々に整備した結果、病害が減り、収量が安定した。
- 県の共励会にも積極的に参加し、技術を磨いた。その結果、粒ぞろいや粒張りがよい、形と色の良い、高品質・高単価の房が生産できるようになった。

今後の取組

5年後には、年間農業所得1,000万円を超えるよう、高単価が狙える「欧州系品種」の面積を拡大し、生産量を増やすと共に、直売所を充実して、販売額を増やしていく。

また、ブランド化に取り組み、有利販売につなげていきたい。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

露地ブドウ 25a

- 平成23年に経営開始。
- 病害の発生により低収量。
- 品種は全て「巨峰」だったが、一部を伐採し、高収益が見込める「欧州系品種」の苗木を定植。

3～4年目

露地ブドウ 15a
施設(雨よけ)ブドウ 15a

- 雨よけ設備を整備して、病害を軽減し、収量確保。
- 庭先販売に加え、地元の直売所でも販売を開始。
- 「欧州系品種」栽培を拡大。

現在（7年目）

施設(雨よけ)ブドウ 45a

- 新たにブドウ園を借受け、面積拡大。
- 雨よけ設備を全ほ場で整備完了。

今後の目標（12年目）

施設(雨よけ)ブドウ 60a

- 経営開始後に定植した「欧州系品種」が成木化。収量増加。
- 面積拡大や直売施設の充実等を行い、農業所得1,000万円を目指す。

しろさとまち
茨城県城里町
たかはぎ

かずひこ

高萩 和彦 さん (38歳)

(営農類型：施設野菜＋露地野菜)
(中山間)

新規就農までの経緯・背景

実家は農家ではなく大学卒業後は民間企業に勤めていたが、新・農業人フェアで相談をしたことがきっかけで農業に興味を持ち、県立農業大学校での研修や城里町の研修受入れ農家での1年間の研修につながった。その後、住居や農地を見つけ、施設等を整備し同町で平成24年に独立就農した。

経営発展のポイント

- ・経営開始時の機械装備等については、できるだけ中古で揃えるなど初期投資を抑えた。
- ・無利子融資（就農支援資金）や経営体育成支援事業などを活用し、パイプハウスや灌水設備等を円滑に整備した。
- ・減農薬、減化学肥料栽培に力を入れ、安全・安心で高付加価値な農産物販売に取り組んだ。
- ・販売先として、直売のほかレストランや青果店等との直接取引など販路開拓に力を入れ、有利販売に取り組んだ。

農業次世代人材投資資金、無利子融資の活用例

農業次世代人材投資資金は生活資金や就農時の設備投資等に活用。また無利子融資（就農支援資金）を活用しパイプハウス等を整備。



今後の取組

栽培品目の増加と規模拡大を図ることで、販売金額1,000万円、所得500万円の早期実現を目指す。

農産加工品（委託加工）の充実により、販路を拡大し経営の多角化を図っていく。

経営の推移と今後

経営初期（1～2年目）

アスパラガス 15a
(ハウス5棟)
ショウガ等 13a

- ・平成24年に経営開始
- ・就農当初は、アスパラガスに病害虫が発生し低収量、所得は約-40万円
- ・農業次世代人材投資資金で生計



3～5年目

アスパラガス 15a
(ハウス5棟)
ショウガ等 20a

- ・新品目として干し芋（加工）を導入
- ・レンコンの試験栽培を開始
- ・販売金額約230万円、所得が黒字化



現在（6年目）

アスパラガス 15a
(ハウス5棟)
ショウガ等 35a

- ・技術向上によりアスパラガスの収量が安定
- ・レンコンの本格栽培開始
- ・販売金額約400万円、所得約150万円



今後の目標（7～8年目）

アスパラガス 15a
(ハウス5棟)
ショウガ等 55a

- ・委託加工による商品開発
- ・レンコンの栽培面積を拡大
- ・目標は販売金額600万円、所得300万円